

祝辞

## 千原由幸

文部科学省研究開発局 局長



先端基礎研究センター設立30周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、本日は本記念式典にお招きいただき、日本原子力研究開発機構(JAEA)の小口理事長をはじめ、先端基礎研究センターの高梨センター長、そして同センターの皆様は厚く御礼を申し上げます。なお、高梨センター長におかれましては、一日も早いご回復をお祈りしております。

先端基礎研究センターは、原子力研究開発に関わる課題の原理、現象を解明するため、他の基礎科学分野との協調により、原子力の発展や他分野の開発を先導する研究の発展を目的として、1993年に設立されました。以来、一貫して日本の原子力及びその周辺分野における最も基礎基盤となる研究に取り組み、多くの成果を上げるとともに、優秀な研究人材の育成にも努めてこられました。

また、歴代センター長は現在の高梨先生がそうであられますように、さまざまな分野で活躍された先生方をお迎えし、加えてグループリーダーの多くを国内外から広くお招きをして、柔軟な組織運営を行うなど、常に新風を吹き込む役割も果たしてこられました。文部科学省では2050年カーボンニュートラルの実現やエネルギー、経済安全保障等への貢献に向けて、原子力科学技術に関する中核的基盤の構築、発展に努めております。また、原子力はエネルギーのみならず、工業、医療、農業における放射線利用など幅広い分野に貢献するものです。このため、文部科学省といたしましては、中長期的な視点に立ち、今後の原子力科学技術の方向性について審議会での審議を始めていただいたところであり、来年夏頃の取りまとめを予定しております。

原子力科学技術イノベーションの推進や人材育成基盤の強化などについても精力的に議論を進めてまいりたいと考えております。そのような中、JAEAは我が国における唯一の原子力の総合的な研究開発機関として大きな役割と責務が課せられていると認識しております。現在の原子力を取り巻く様々な課題に対しては、従来技術にとどまらない独創的なアイデアによる解決策が求められており、先端基礎研究センターが果たすべき役割はますます大きくなっていると考えております。

この30周年を一つの節目として、センターがますます飛躍し、国内外共に先導的役割を果たしてゆくことを願ってやみません。結びに先端基礎研究センター設立30周年を重ねてお祝いを申し上げますとともに、センターの更なるご発展と本日も列席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。